＜被災地訪問 三日目午後　田老地区　＆ 住宅事情、感想＞

陸前高田、大槌、山田、宮古を巡る旅、
3 日目の午後は、宮古駅から、万里の長城と言われる堤防のあった宮古市田老地区へ

（路線図の左下から、右上へ）宮古駅付近にて　　右、三陸鉄道の皆さんへ、全国から応援メッセージ

田老では、ガイドさんをお願いし、車で回って頂きました。
左　役所の縄張り争いの結果、二つの堤防をくっつけ X 字型になったのですが、片方は、できた当初から質の悪さがうわさされていたとのこと。

右　「どこから逃げても同じ高台に行ける道」、「角を切って、見通しの良い曲がり角」等々、設計上は万全のはずだった避難路。津波が来る際には、全員が助かることで名を馳せるはずだった・・・。
なんと、堤防より海側の住人の方が危機意識が高く、すぐに逃げて助かった人の割合が高かったそうです。
車の止め方が生死の分かれ目になったこともあったようです。昔の津波を体験された方は、子供たちにも、靴の並べ方(すぐ履いて逃げられるように)をうるさく言っていたとか。

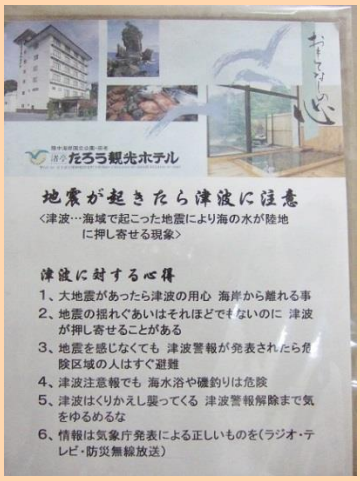
・堤防自体の高さは 10m、海抜なら 15m。津波の高さは 20m。最初の警報では「津波の高さは 3m」。そして停電！　その後、高さが修正されるのを聞くことができなかったそうです。http://youtu.be/OSsFrkwbrOA

・画像で見る岩手県田老町の悲劇と防潮堤の破損　http://matome.naver.jp/odai/2130072889754692501

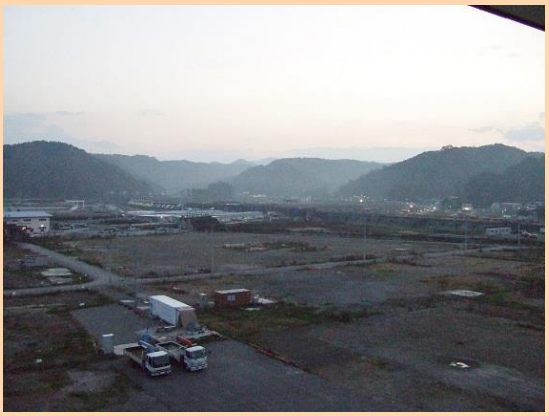
・堤防には水門があり、それを締めるために犠牲になった方も。http://diamond.jp/articles/-/14354?page=4

・防潮堤には効果が無かった？　http://blog.goo.ne.jp/traum2011/e/417f058ee9d4ad83a7d8cad3ba76c3ff

(左)　仮設住宅?　　(右)　ガイドさん　左側に流木で作ったような小屋が見えます。



左　たろう観光ホテル　一階部分　「建物を保存しておきたいと考えているけれども、塩水に漬かったため、腐食が速く、保存が危ぶまれている」とのことでした。津波襲来時、社長さんは、全員を避難させた後、一人最上階に残り、津波襲来の様子を撮影したそうです。そのすぐ下まで津波が来て、思わずのけぞっているリアルな様子が分かる映像を、それを撮影した部屋で見せていただきました。
右　以前から、全館に津波に注意の張り紙があったそうです。



左　田老　寂しげな夕暮れ　　右　駅の貼紙

・宮古の夜

左　ここではこの高さまで津波が来たということを知らせる警報。
右の写真では電柱の高さ３ｍ位のところにはってあります。

左　いつでも警報を鳴らせるよう、あちこちにスピーカー。天気予報などが流れていたように記憶しています。

・宮古港　　本部東日本大震災調査団（宮古港・釜石港班）のレポート
http://www.scopenet.or.jp/main/h_shinsai/pdf/07_hisaizyoukyou/miyako.pdf

・旅館へ（浄ヶ島旅館）

左　旅館の夕食　海の幸満載！　　右　ハロウィンの時期でした。

＜住宅をめぐる生の声＞

・被災直後

「兄弟四世帯が住宅全壊または半壊。大丈夫だった兄弟の家に三世帯が集まったけれど、冷たい扱いを受け、早々に出て、半壊した家の中で大丈夫だった部屋で暮らした。遠くの家族より、近くの他人だよ。」

・仮設住宅

今も、学校の運動場などにあります。「エアコンは夏も冬も全然効かないし、音が筒抜けで、よく冗談で『おならもできない』なんて言う」そうです。また二年が経ち、耐用年数を超え、はやくも雨漏りやら床が抜けるやら･･･。しかし、車は多くの家庭で手に入れているようです。

・今後の住宅

「低地には商店街や公共施設だけを建て、住宅は高台に建てる。」と、はっきり決めた町。ゆるやかなガイドライン程度にした町などはそれぞれですが、いずれにしろ、三陸は、山が海まで迫っていて、低地にしろ、台地にしろ、平地は少ないので、建物が立てづらいです。規則が現実に追いつかないので、はじめは、「その場所は、新築するのはダメだけれど、リフォームなら良い」といわれ、新築並みにお金をかけてリフォームしたのに、そのあとになって、「やはりその場所は住宅は一切ダメだから、別の場所に移転して下さい」と言われた。しかも、代替地は一向に決まらない。といった悩みも聞きました。

高台の土地は、地価上昇率日本一となってしまったところもあり、「親戚だってマケてくれない」なんて声も。今は山を削って、住宅地を作る準備を進めていますが、家が建つまで、まだ二年三年かかるとのことです。

＃　陸前高田市米崎町の一部が、住宅地で全国一位の上昇率に。

http://www.47news.jp/47gj/latestnews/2012/10/1348144.html

・商業施設　一方、低地は商業施設なら OK なので、元商店主達で集まって色々と計画を立てているようです。宮古など、すでに復興が進んでいる街で、あちこち店を覗きながら歩いていると、おそらく商店主と思われる人たちで集まって何か相談している姿を見かけました。逆に言うと、グループを作った場合にのみ、補助金が出るなどの決まりもあるようです。僕の泊まった浄土ヶ浜旅館も、一度は廃業するつもりだったため、グループ作りに間に合わず苦戦したようです。

＃ 浄土ヶ浜旅館を含む、宮古大槌旅館民宿再興グループ

http://miyakootsuchi.web.fc2.com/jodogahama.html

若い家族は、仙台などへ出て、そちらで馴染んでしまうともう戻ってこないことが多いとのこと。会社など、再開したくても、社員が違う土地に行ってしまっていて、再開できないということもあるようです。「鮭は偉いよ。ちゃんと戻ってくるもの」という愚痴も聞きました。

＜感想＞

見に行くだけなんて嫌がられないかとも思っていましたが、そんなことはなく、どこでも大変親切にしていただきました。むしろ、直後のぐちゃぐちゃな状態を見て欲しかったと言われました。「５年位たったら、また来てよ。その時にはもっとちゃんとおもてなしするから。」とも。また、テレビ等でどれだけ悲惨な場面を見ても、どこか人のことだったものが、自分も常々気をつけなければという意識に変わりました。たいしたサポートはできませんが、せめて風化させないようにとここに記しておきます。

2013.11 月～2016.1 月　　外山浩之

◆ **東北物語（観光、語り部等の案内）**　http://tohoku-monogatari.org/

→ **被災地訪問　その５　四日目　観光＆帰路**